

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第107回

群馬大学の活動報告

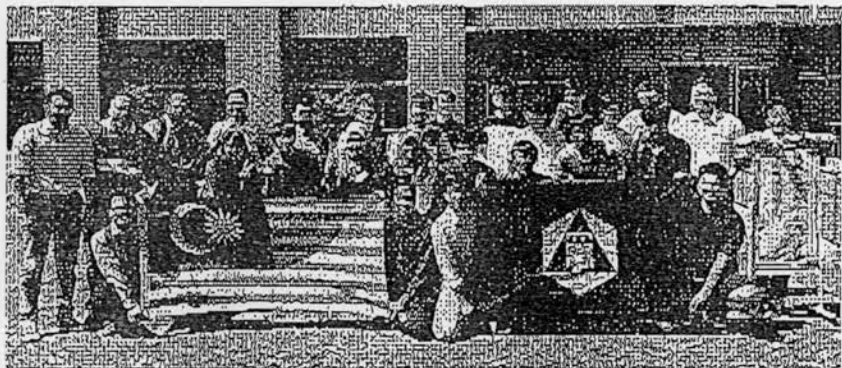


座間淑夫
(群馬大学大学院
知能機械創製部門助教)

マレーシアから8名を招聘、最先端エネルギー交換技術を実体験

① 活動内容

平成29年9月10日から16日まで、「さくらサイエンスプラン」の支援を受け、マレーシア・マラッカ科学技術大学から6名の学生と2名の教員が来日しました。マラッカ科学技術大学は世界遺産に登録されているマレーシアの古都「マラッカ」に位置し、学生数が1万人規模の工学系の公立大学です。機械工学系の学部をはじめとして電気、情報工学など7つの学部と研究センターから構成されており、「実践と応用」を中心とした教育を行っています。



招聘学生と群馬大学生等との集合写真

今回は、機械工学科の学生と教員が本プログラムに参加し、1週間程度という短い期間の滞在でしたが、最先端エネルギー交換技術に関する研究・教育を実体験から学ぶ、本学での学びについて興味を持ってもらうことを目的としました。さらに近い

プログラム	
1日目	到着
2日目	オリエンテーション 研究室見学(11研究室) ウェルカムパーティー
3日目	先端エネルギー交換技術に関する基礎実験
4日目	英語による研究発表会 英語ディスカッション
5日目	群馬県内企業見学(㈱SUBARU)
6日目	日本文化体験@草津温泉
7日目	帰国

の後、本学科に所属する11研究室の見学を行いました。研究室見学では研究紹介の説明を熱心に聞く姿がみられました。特に質疑の時間では招へいた学生から数多くの質問がなされていたのが印象的でした。

ウェルカムパーティーでは、積極的に研究室の学生との交流を深めようとする姿がみられました。研究室で行った伝熱工学に関する基礎実験では、初めて使う実験装置に戸惑いながらも、学生間で相談しながら実験に取り組んでいました。また、自国の留学授業で学習した内容について実験を行いました。なぜそうなるのか?という疑問に学生間で自発的に議論し、場面もありました。また学生間の学術的な交流を目的として、双方の学生から英語による研究発表会を行いました。質疑では的を射た質問が学生からなされるなど非常に活発なディスカッションを行なった思っています。また、英語に不慣れな研究室の学生からも質問がなされたことに驚きを覚えました。

群馬県内の企業見学としては、(株)SUBARU(スバル)矢島工場に伺いました。スバルの沿革から自動車の組み立て工程などの概要説明の後、工場内のオートメーション化された製造ラインや手作業による部品組み立てラインを見学しました。また、同時に完成車検査等の品質管理について説明を受け、その厳密さに学生たちは驚いていました。さらに、アイサイトの説明ではその仕組みを熱心に聞く姿がみられ、日本の最先端技術に関心を持ったようでした。

日本文化体験として、日本の名湯「草津温

符来、再来日してもらう切っ掛けとして、日本人学生との交流も重視しました。初日は、桐生キャンパスに到着後、本学、知能機械創製部門長との挨拶を行いました。そ

泉)へ1泊で研修旅行に行きました。現地では、温泉地ということもあり、女子学生から「浴衣を着たい」と要望がありました。そこで、浴衣を着て湯畑など温泉街を散策し、湯もみ体験も行いました。1泊という短い期間でしたが、日本文化を知る良い機会になりました。

②プログラムの成果

今回のプログラムで招へいた学生からのアンケート結果をみると、全ての学生から「非常に素晴らしいプログラムである」と回答を頂きました。一部分ではありますが本学で行われている研究、教育について自分自身でふれたことで、近い将来、日本で学びたいという多くの意見もありました。その根拠として、本学に留学するためにはどのようにすればよいのか?留学するための支援をうける

ためにはどのようなようにすればよいのか?など招へいた学生から問い合わせも頂きました。また、研究発表会や懇親会での交流を通じて、日本の学生が不慣れな英語で招へいた学生と会話をしようとする場面が多くみられ、最終日には連絡先を交換しあい、現在もSNSを使って連絡を取り続けているようです。今回の試みでは学生間の国際交流という観点で考えると双方の学生にとって、教育的効果は非常に大きかったと確信しています。

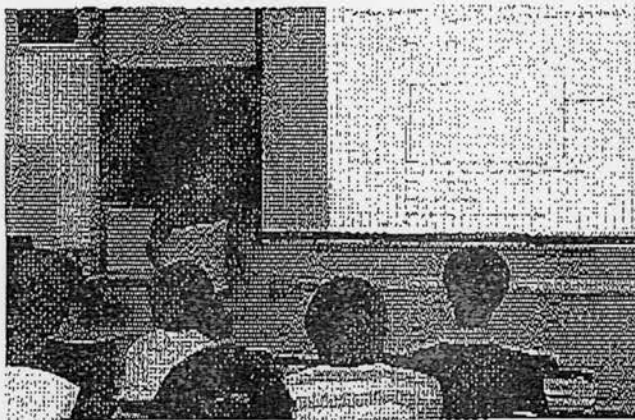
③今後の展望

今回、さくらサイエンスプランの支援を受けて留学生の短期受入れを実施してみても、外国の学生が日本の研究や教育さらには日本の文化を体験し、それらの理解を深める非常に有意義な活動であることを実感しました。このような活動を通して、アジア圏だけでなく

世界中の優秀な学生を受け入れたいと考えています。

招へいた学生からの率直な意見では、日本の大学で学びたいが経済的な理由で留学まで踏み切れないという実情があるようです。学習意欲のある優秀な学生を日本の大学へ受け入れるためには、学生への経済的支援をさらに強化する必要があります。

この点について大学の自己努力も必要ですが、国からの奨学金などの支援が必要不可欠だと思います。少子化により、今後の日本を支える若者人口の減少は大きな問題であります。その対策の一つとして、学術交流を通してアジア圏などの優秀な若者を来日させるよい機会として、今後もさくらサイエンスプランが継続させることを強く望みます。



英語による研究発表会



群馬大学知能機械創製部門の研究室見学



草津温泉にて日本文化体験



群馬県内の企業見学(スバル)